

## 令和6年度鳥取・岡山両県知事会議 議事録

日時：令和7年1月27日（月）15:50～16:45

場所：境港水産物地方卸売市場（鳥取県境港市）

### <開会>

#### ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

皆様こんにちは。本日は大変お忙しいところ、境港市にお集まりをいただきまして、心からお礼申し上げます。ただいまから、令和6年度鳥取・岡山両県知事会議を開会いたします。私、本日の司会を務めさせていただきます、鳥取県政策戦略本部長櫻井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

意見交換に入る前に、ただいまお配りしております、両知事のお手元の飲み物とお菓子をご紹介しますいただければと存じます。飲み物は境港市の千代むすび酒造様の糀甘酒プレーンと、同じく境港市の澤井珈琲のドリップコーヒーをこちらは鳥取県西部の大山焼久古窯のコーヒーカップでご用意をいたしております。また、お水は境港市の弓浜緋のコースターに乗せて提供をさせていただいております。お茶請けは同じく境港市のゲゲゲのもなかをご用意いたしました。

それでは、開会に当たりまして、開催県である鳥取県の平井知事からごあいさつを申し上げます。

### <両県知事あいさつ>

#### ○平井知事

本日は伊原木知事にわざわざこのようにお越しいただきまして本当にありがとうございました。そして、この度新たな任期がスタートされまして、爽快に新しい任期に踏み出され、今日はスケートなどですね、国スポの大会が昨日開幕しまして、お忙しい中このようにお出かけをいただきました。本当にありがとうございます。また万代様を始め、岡山県の皆様には大変お世話になっておりまして、隣県ということもございますが、いろんな形でコラボレーションをしていければというふうに考えておりますので、今日も忌憚のないご意見をいただき、これからもタッグを組んだ、両県政がさらに深まっていくことを願っております。

今回、この境港の方にご案内をさせていただきましたが、皆様にはご覧いただいたとおりですね、いろんな妖怪もいますし、魚もおりますし、大変ににぎわっているところでございまして、今日は、そのテイストを味わっていただければと思います。実はこちらにおります櫻井さんも、岡山市の方に出向したりしまして、平成22年からですね。なんとなく繋がりがあ、そうした今日の会議だったかと思えます。

今日、今衝撃のニュースが入ってきましたけれども、フジテレビの湊社長が辞められると。しかし境港はやめませんので、私たちこれから頑張って発展していきたいと思えます。この境港ですね、ここはお魚のところでありまして、サワラも最近はあるようになっていく日本海であります。「一匹の 鰯を以て もてなさん」と高浜虚子が詠んでおられますが、そんな魚もにぎやかな、おいしい、岡山と鳥取の縁をここ市場でつなげていければなというふうに思えます。今日はですね、妖怪たちにも出会っていただきましたけれども、水木しげる先生の世界、非常に伊原木知事も造詣が深く、本を読んでいた

だいたようでございまして、大変ありがたくお礼を述べる次第でございしますが、こういう漫画のみならずですね、いろんな芸術文化でも両県はこれからも繋がっていけるかと思えます。

また人口減少社会の中で、地方創生 2.0 ということを私ども鳥取県の出身である石破代議士が、総理になられておっしゃっておられます。最近総理がですね、急に眼鏡をかけるようになられましたけども、今日伊原木知事も眼鏡かけておられて、実はだいぶ雰囲気が変わった。そんなわけでこういう意味でも、総理と同じように、眼鏡をかけて、世の中よくもっと見てやろうという伊原木知事のご関心かと思えます。ぜひですねその目線で、人口減少社会に立ち向かう女性だとか、子育て、或いは中山間地域にやさしいまちづくりをしたり、交通をしっかりと守っていく、そんなことに私達一緒につなげていければというふうに今思うわけでございます。

今日はですね、お手元の方に地元のコーヒーなどもあります。これは澤井珈琲という境港の珈琲屋さんなんですけれども、実は銀座などにも喫茶店出したりしまして、楽天ショップではナンバーワンの全国の売り上げです。そんなようなわけですね、実は、スタバはなくてもコーヒーはしっかり作って飲んでいたのが鳥取県でございまして、そんなことなどいろいろと目にかけていただければありがたいなというふうに思います。

境港はさかな港です。そんな意味で、お魚とれる日本海随一の、この漁港ぜひ味わっていただければと思いますし、このシーズンは「さかニ見ないと」でございまして、ぜひカニとも出会う機会を作っていただければと思います。今日 1 日ですね、伊原木知事と一緒に、こういう実りの多い議論になればと願っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

## ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

ありがとうございました。続きまして、伊原木知事よりご挨拶をお願いいたします。

## ○伊原木知事

皆さんこんにちは。岡山県知事の伊原木隆太でございます。本日は尊敬する平井知事をはじめ、鳥取県の皆様にこのようなすてきな場をしつらえていただきまして本当にありがとうございます。

私も先ほど言及していただきましたように、4 期目に入ったところでございます。私が駆け出しの知事をしているときに、平井知事は本当にびっくりするぐらい何をしても素晴らしいお仕事をされるものですから、元々出来が違うっていうのもあるんでしょうけれども、2 期目、3 期目、4 期目になったら、少しそういう感じになったりするのかなとか思ったこともあるんですけども、自分が 2 期目になっても自分が 3 期目になっても、何かあまりそういうことが起きていない、平井知事の挨拶の後、挨拶するってこれ本当大変なことなんですよね。何が素晴らしいって、ここ鳥取県です所以我はリラックスしてしゃべることができる。岡山県でこんなすばらしい挨拶をされると、大変なことになりますのでこの岡山県民の皆さんは、こんなすばらしい知事がいるぞって言って比べられると大変なんですけど、皆さん方、知事はこんなすごい人が普通だと思われるかもしれないけれども、全国でもこんなすごい方めったにいらっやしません。だからこそ、全国知事会の会長もされるわけでありまして。私も挨拶の中に何かこう、立派な人の句を入れてみたりですとか、何回か試したんですけど、全然ぎくしゃくしてうまくいかない。最近そもそもそれもしなくなっています。ただちょっと眼鏡をかけると、かしこそうに見えるのかなっていうことでちょっと今日試してみたんですけども、でもとにかく少しずつで

も、真似をすることで近づけられればいいなと思っているところでございます。もともと私、商売人出身ですので、売り込むっていうことは、官僚をされた平井知事より得意なはずなんですけど、カニの売り込み方、コーヒーの売り込み方から、さっきの妖怪の売り込み方から、本当に何ていうか、売り込むということでも抜群の手腕を発揮されております。私の取柄が見えてこないじゃないかみたいなことなんですけども、これも県が別ですし、選挙で戦わなくて済むということは本当にうれしくありがたく思っているところでございます。

ここ境港、2018年にもお邪魔させていただいて、あのときにクルーズ船の大きいことに驚かまして、今回は素晴らしい施設を作られて、衛生管理にも十分気を付けられて、本当に水木しげるロードもそうですし、妖怪も増えたし、記念館も非常にあと本当は2時間、3時間でも居たくなるような展示でありまして、平井知事のご指導のもとで、それぞれの場所がそれぞれの機能が着実に評価をされているなということに非常に感銘を受けたところでございます。岡山県も負けていられないなと我々は我々の強みをしっかり伸ばしていこうと思っているところでございます。また、新橋のアンテナショップもそうですけれども、お互い協力することで、それぞれにとって得になることもいっぱいあると思っています。今日、この機会も活用させていただきながら、それぞれの県をもっともっと元気にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

ありがとうございました。続きまして、意見交換に入らせていただきます。意見交換につきましては、平井知事に進行役をお願いいたします。

#### <意見交換>

##### 人口減少問題克服へ向けた両県の連携について

#### ○平井知事

それでは若干時間をいただきまして、これから意見交換に入らせていただきたいと思います。いろいろと過分なお言葉をいただき恐縮をしておりますけれども、本当に伊原木知事のリーダーシップで岡山県と鳥取県の間をすばらしく発展をしております。ぜひですね、皆様、今日は地元の記者さんたちもたくさんおられるかと思っておりますけども、米子しんまち天満屋の方に行っていただきまして、お買い物してから帰っていただきますようお願い申し上げたいと思います。

今日ですね、4つテーマがありますがまず第1番目としては、人口減少問題の克服に向けまして、それぞれの両県の取り組みや連携について、お話をさせていただきたいと思いますが、ちょっと私の方で口火だけ切らせていただきまして、また伊原木知事のお話をいただければと思います。

これは伊原木知事も入っていただいている、私どもの将来世代応援知事同盟というところで、この春5月にみんなで宮崎に集まりまして、期成をあげたところでありました。そしたらそのあとですね、大きく今展開をして、石破政権もこの問題、地方創生2.0で取り上げられるようになってきました。放っておくと人口は全国半分になってしまう。そういうようなことにならないように、2100年を見据えて今、始めなければならないということです。伊原木知事におかれては、選挙の間も、私も拝見させていただいて感銘を受けましたけど、やっぱり子どもを育てやすい、そうした地域をぜひ作っていく、それこそがこれからの私たちの未来の戦略だというふうに強調されておられました。私どもも奈義町などです

ね、岡山の先進的ないろんなやり方にならないながら、我々も我々の挑戦を鳥取でもさせていただいて、医療費のことや、或いは保育料といったような、そうした環境を整えることに加えて、子どもを得ることがなかなか難しい年齢にある人たちの不妊治療をしっかりとやっていく、その助成制度を行っていたり、産後ケアをやったり、少し私なりに背伸びをしてですね、少子化対策を進めて参りました。

また女性の活躍の場というのは、非常にこれから大事だというふうに総理もおっしゃっておられます。先般、伊原木知事には11月30日の日本創生に向けた人口戦略フォーラムにビデオレターで、御出演をいただき非常に力強いお言葉をいただきました。その折に、総理が実は強調されていたのが、女性の職場環境を整えたりとかですね、それから今あるアンコンシャスバイアスのような、そうした格差というものをやっぱり取り除いていかないと、岡山に住もう、鳥取に住もうというふうになってくれないんじゃないかと、こういうことでやはり、まさに同感であります。こうしたことにも積極的に私たちは、ノウハウを共有したりですね、取り組んでいかなければいけないと思います。

鳥取県でも新年度に向けて今戦略を練り始めておりますけれども、キャラバンのようにしてですね、各団体等を回らせていただきながら、女性の視点で政策を振り返っていきこう、そのような意欲的な取り組みをしていくべきではないだろうか。おかげさまでレーティングとしてですね、ジェンダーギャップ指数では、鳥取県は今比較的高いところをレーティングしていただいておりますけれども、ただ正直これで、じゃあここに住んでみようというふうに女性の皆さんにもなっていたらいいか、というのは、まだ道が遠いと思っています。そんな意味でですね、こうした若者や女性、子育て、こういうところに着目をしながら進めていく必要があるのだらうと思います。

また人口減少の中で、やはり中山間地を中心として、住みにくいことが出てきております。今回、地方創生2.0に基づく交付金で、我々がこうやって訴えているからかもしれません、買い物支援なども新たなメニューとして入ってきたりしました。この買い物関係では、岡山さんの力とですね、私ども地元、鳥取側とが協調しながら、今何とかこれを乗り切ろうとしています。

例えば、今県境の蒜山の麓に関金という倉吉の一角がございまして、ここは真庭の事業者さんを誘致をして、それで買物を続けているという状況であります。なかなか中山間地の経営大変なんですけども、今そういう意味で一肌脱いでいただいているという実情があったり、さらに総理の地元の八頭町というところ、これもAコープが閉まってしまいました。そのAコープの後継には、マルイグループのエスマートがローソンとですね、コラボをして共同で入るような形で、買物をつないでいただいております。考えてみますと、こういう人口減少社会でそうした生活の利便性を保っていくのは大変でありましてですね、一緒になってやるのが大切だと思います。

またお医者さんの数も、多数県であると、全国から見ると平均よりも上回っていると、岡山が言われ、鳥取も言われております。これは大学の医学部の定数を減らす年報に使われてる感がありまして、こういうことで単純に仕切れる問題じゃないだろうと。正直申し上げて診療科目によっては足りないところはありますし、さらに、岡山も鳥取もですね、65歳以上の比較的年齢の高いお医者さんが多い。ですから若いお医者さんの数は東京とかと違って少ないわけですね。ですからこの辺でも、一緒になりまして国に働きかけたり、今後の中山間地における医療体制を作ったりということができないのではないかと考えております。こういうような意味で、人口減少に立ち向かう今後に向けた戦略とそれから人口減少社会の中でも、生活を続けていけるような、そういう環境づくり両面においてですね、岡山県との協調した戦略を練って参りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

## ○伊原木知事

平井知事のリーダーシップで、日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとりが開催されました。大変この分野に関して重要な方々が集まり、また石破総理まで駆けつけてくださったということで、本当に毎回思うことですが、今回も平井知事の実行力、影響力には、本当に感銘を受けたところでございます。とにかくこれまでさぼっていてこれから一生懸命やるならまだしも、これまでも一生懸命やってきたつもりなのに、状況を大きく改善することができていないということであれば、これから本当に力を入れていかなければいけないと思う次第でございます。ぜひ、一緒に取り組んでいかせていただきたいと思います。当日、岡山県の金田コーポレーションの取組についても紹介をしていただいたということで大変うれしく思っているところでございます。

人口問題と絡んで若者が流出をしている。岡山県も典型的なパターンで、10代後半、20代後半にかけての転出が大きい。県内大学の就職率が今、岡山県では40%、県外大学に行った若者のUターン就職率が30%ということで、これは2016年からずっと調査をできる限り詳細にしているところなんですけれども、調べ始めて最低になっているということでもあります。コロナ禍で一旦高まった地元への関心が、また薄れてしまっている。何か若者にとっては、東京の方が夢が広がっているように見える。それについて、我々何とかしなきゃいけないなと思っているところでございます。合同企業説明会、インターンシップ情報の提供、他県もやっているであろうことはしっかりやりながら、それ以外で何をするんだっていうことで、例えば企業のリーダー、それから若手社員、それから学生さん、いろんな会議体とか、会ってもらってどこに認識の違いがあるのか、どこに改善の可能性があるのか、そういったところも探っていきたいなと思っているところでございます。この流出に関しては、私、大変危機感を持ってまして、ありがたいのは石破総理が、東京一極集中というのは、明治維新以降、戦争を通じて自分たちで作った仕組みなんだから、自分たちでわざわざ作った仕組みは自分たちでもう一遍戻すことだって可能じゃないかっていうそういう意気込みで、国を挙げてしていただいているっていうことに、大変力強い思いを持っているわけなんですけれども、私以前、石破先生とお話をさせていただく機会のあるときにちょっと図々しく申し上げて、最近書かれた『私はこう考える』石破総理の本に、一部簡単に紹介をしていただいて、大変光栄なことなんですけれども、実際に東京一極集中がぐっと進んだのは、明治維新以降、戦争を通じて、これは本当にそうだと思います。ただ私、ほんの数年だけアメリカやヨーロッパにいて、ほんのちょっといろんな人と話をしているときに、アメリカ人やヨーロッパ人ってあんまり、何かあったら都会に、都会に行ったから偉い、私の将来の目標は都会で定着することだ、みたいな人には、ほぼほぼ会ったことがない。どっちかっていうと、隙さえあれば、もっとずっと暮らしやすいところに行こうっていう大都会に住んでいる人が多いぐらいですけども、日本の場合、三太郎の桃太郎、一寸法師、金太郎、3つの物語のうち、ちゃんと活躍した後ふるさとに戻ったのは、我々の桃太郎だけで、他の一寸法師と金太郎っていうのは、最後のハッピーエンドが、京に上って天守様に仕える、偉いお侍さんの家来になったっていうのが、その2つの物語のハッピーエンドで、我々は昔から京に上る、天守様の近くに住むっていうことがすばらしいことなんだっていう刷り込みを受けているので、これは心してやらないと本当に我々の一極集中っていうのは、何か価値観にも関係する根深いものがあるような気がするんです。我々、グリム童話とか、ヨーロッパの童話で最後、ロンドンに住みました、パリに住みましたみたいなハッピーエンドはあんまり聞いたことがない。大体、森の中の湖のほとりのお

城でということなので、そういうことも含めて一生懸命頑張ろうと思っています。この新橋館での移住・仕事相談コーナーの運営もそうですし、とにかくできることをやってみるということが大事だと思っています。

これまでやってきた女性の活躍支援についても、また新しい意味が付加されていると思っています。女性大変だな、何とかしてあげようということじゃなくて、我々の人口を維持するために、本当に女性の方に頑張ってもらいたくことが、すべての人のためになるということで、これまで以上に本気で取り組んでいかなければいけないと思っていますところでございます。

また、医療提供体制についても、平井知事おっしゃった通りでありまして、国の方から、岡山県お医者さんがたくさんいてよかったですね、つきましては、こういうふうにさせていただきますっていうのは、我々の実感からすると、随分違うことになっている。確かに県南で言えばありがたいなっていうふうに感じている県民多いわけで、ただ県北は本当に苦労しながら回している。実際に回っていないっていう声も多々ある中で、ちょっとさすがに国から言われたことについて、はいそうですかと言えない状況ですので、ここはぜひ国に対しても、それからどう工夫していくかについて、協力させていただきたい。これ買物支援もそうなんですけれども、厳しい中でどう回していくのかについて、置かれている状況が似ていることもありまして、ぜひお互い勉強させていただきたい、助け合っていきたいと思っていますところでございます。

人口の自然減対策についても、とにかく我々、子育て支援をしっかりやってきたつもりです。結婚支援については、なかなか踏み込みづらっていうことも、踏み込んでこなかったように思うんですが、でも実際、結婚したカップルから生まれる子どもの数はこの50年間、あまり減っていない。結婚する人が激減しているからこそ、ここまでの少子化になっているということを踏まえれば、我々当然調整はできない、当たり前なんですけれども、結婚したい方が結婚しやすくなるような環境づくりもしくは、雰囲気づくり、仕組みづくり、これに根限り力を入れて、何が悪いんだ。あと、私の反省としてこれまで、県庁が頑張る、市役所をお願いする、あたりまではやってきたんですけれども、岡山県に住んでいる若い人たち、結婚しようか迷っている若い人たちの大半は当たり前ですけど、民間企業にお勤めなわけでありまして、民間企業とそれぞれの経営者の皆さんが、そうだよな、俺たちの会社もってこの若い人が結婚できる、子育てできる環境にしなきゃいけない、仕組みを整えなきゃいけないっていうふうには、納得して動いていただくようにしなければ、実効性があることにはならない。当たり前なんですけど、今更気が付きました、今それぞれの分野の経営者の皆さんを説得にかかっているところでございます。何をやっても数字が動かなかったら、本当にただ吠えてるだけなんですけれども、ぜひここは、根限り一生懸命頑張りたいと思っていますところでございます。

今の公共交通の問題、買い物の問題、人手不足の問題、学校が統合しなきゃいけない問題、すべて20年前、30年前、40年前に、人口減少問題に本来必要なほど取り組んでこなかったツケがまわってきていると、私は解釈をしているところでございます。ぜひ、この20年後30年後に、あのとき伊原木が一生懸命やらなかったからこんなことになっているっていうふうには、極力言われずに済むように、平井知事と一緒に頑張っていきたいと思っていますところでございます。

## ○平井知事

ありがとうございます。今伊原木知事がおっしゃったように、我々ですね共同で国に訴えかけていくこともいろいろあると思います。伊原木知事がかねてからおっしゃっておられるように、例えば企業の分散を図る。そのための税制改正もあっていいんじゃないだろうか。石破総理にも実は個人的にそういうことを申し上げたこともあるんですが、今後ですね、所信表明演説の中でも、企業だとか、大学、それから政府機関の地方分散ということ結構はっきり書いてしゃべっておられました。ですからこれからですね、風向きが変わることもいっぱいあると思いますので、両県で共同してやっていけばありがたいなと思いますし、せっかくとっとり・おかやま新橋館もあるので、あそこを拠点にして、移住のツアーなどもですね、昨年度も展開をして実際に来られた方もいらっしゃいましたし、また併せてマッチングの機会がですね、岡山、鳥取で一緒にさせていただいたら、これ2年前ぐらいに合意してですね大成功でした。

### ○伊原木知事

6組カップルが成立したっていうふうに聞いてまして、やっぱりこれはぜひ継続をさせていただきたい。

### ○平井知事

おそらく相性がいいんだと思いますんで、岡山、鳥取でまたそうしたこともですね、ぜひ進めていければと思います。

## 文化・芸術を通じた観光振興について

## 交通ネットワークの整備や利用促進について

### ○平井知事

それでは引き続きまして2番目と3番目の議題ですね、時間の都合で文化芸術を通じた観光振興や交通ネットワークにつきまして、まず伊原木知事から、お願いしたいと思います。

### ○伊原木知事

ありがとうございます。我々の方から、まず森の芸術祭についてお話をさせていただきたいと思います。アートディレクターに金沢21世紀美術館館長の長谷川祐子さんをお迎えいたしまして、昨年9月28日から11月24日まで、約2ヶ月開催をいたしました。「森の芸術祭 晴れの国・岡山」でありますけれども、本当に正直私が思っているよりも、たくさんの方にお越しいただきまして、延べ52万人の方にお越しをいただきまして、また大変良い評判をいただいて、無事に終わったところでございます。本当に関係する皆様方に感謝を申し上げたいと思います。鳥取県の方でもいろいろとPRをしていただいたというふうに聞いております。本当にありがとうございました。

よく岡山の県北って、アートっていうとなんかちょっとあまりしっくりいかないような印象をお持ちの方もいらっしゃるんですが、実は結構岡山の県北はアートと相性がいい。美作三湯芸術温度という手作りのあまり予算をかけていないイベントなんですけれども、3年ごとに、すでに3回やった実績がございまして、来年度4回目になる芸術温度をやることになっているんですが、これが非常に評判がよかったこともあって、森の芸術祭を開催する決意ができたっていうことなんですけれども、ぜひ、我々と

すればアートも活用しながら、それぞれの地域を盛り上げていきたいと思っています。鳥取県さんはいよいよ県立美術館が開館ということで、あの箱も届いたということは聞いております。ぜひ、一緒になんらか共同で盛り上げさせていただきたいなあと考えています。来年度は瀬戸芸もありますし、また岡山芸術交流もありますので、アートって言うと本当に一部のなんか高尚な人、詳しい人だけのものかというふうに思われがちだったんですけども、意外とすそ野が広い。私みたいにそんな専門教育も何も受けてない、とんちんかんな感想をいうような人間でも、何か思うことがあって、いろいろ見てくると少しずつそれが思い出だったり記憶として何か私の人生に、影響を与える。それでいいんだというふうに詳しい方も、やさしい方はおっしゃっていただきますし、ぜひアートを通じて、それぞれの地域を豊かにしていきたいと思っていますところでございます。どうぞよろしく願いいたします。

続けて、交通の方についてもお話をさせていただきます。交通はいろいろあるんですが、まず鉄道なんですけど、鉄道は二次交通を支える基幹的な存在であります。鳥取県、それから沿線自治体とともにこの因美線・津山線近代化促進期成同盟会等を通じまして、今、JR、国に対して、路線の維持を働きかけているところでございます。そのために、例えば、オリジナルの硬券切符を作ったりとか、智頭急行でイベントへの出展、沿線マップの配布とか、どういうふうになれば関心を持ってもらえるのか、使ってもらえるのか、きっかけになるのか、いろいろ鳥取県の皆さんと協力しながら頑張っているところで、とにかくお願いするだけじゃなくて、我々としてもこの利用促進を通じて、大事な路線を残していく努力をこれからも続けていきたいと思っています。

道路については、より前向きな状況になっております。岡山米子線、これができたのが1997年3月に暫定2車線で開通をして、やっぱり繋がっていない、繋がっている、これは大きな違いですので、ついに太平洋、瀬戸内海、日本海、全部繋がったと意義深かったわけなんですけれども、それからずっと2車線のままでえらく長く待たされたわけなんですけれども、でも2016年度、平成28年度以降の、賀陽インターチェンジから北房ジャンクション間、それから蒜山インターチェンジ以北において、この付加車線の設置が決定をされた、22年3月に溝口インターチェンジから米子インターチェンジ間の4.8キロが事業化されたということで、岡山ジャンクションから米子インターチェンジ間すべて4車線で事業化されることになって、本当に心強い、おめでたいことであると思います。事業化されることになったからには、ぜひ実際の工事ができるだけ早く進むよう、国へ働きかけたり、それからNEXCO西日本の皆さんを支援するというので、ぜひ1日も早く4車線でつなげたいと思っていますところでございます。スタンプラリーですとか、いろいろなマルシェをしたり、とにかくせっかくですので、太くなった道をいかに有効に我々が活用をして、我々の地域をより豊かにするか、そういうことについてもこれから一緒に相談させていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

## ○平井知事

はい。どうもありがとうございました。まさにおっしゃる通りで、観光っていう上でも芸術文化を絡めながら、或いは交通ネットワーク、ぜひ一緒に構築していきたいと思っています。瀬戸内国際芸術祭はもう世界中からファンが集まってくるようになりました。また、美作三湯芸術温度、そして我々実は新しい美術館が倉吉にできますが、奈義は現代美術の宝庫でありますし、他にも真庭や鏡野の方にもそうした文化施設が、さらに言えば大原の美術館ですね、県南の方にもある。こういうことをつなげていくと、1つの動線になるんじゃないかなと思います。ちょうど新年度4月13日からは、いよいよ大阪・

関西万博が始まります。そういう人たちが、緊急エリアでとどまるのではなくて、岡山或いは鳥取を回って帰っていただくと、世界中の人にも共通のメッセージとなるこの芸術や文化、こういうものでもおもてなしをするって非常に大きなものであると思いますので、ぜひですね、そうしたネットワークをつなげていけるように、誘客を絡めてやっていければと思います。

また併せまして、交通ネットワークについては、道路交通網として、実は今伊原木知事がお越しになったこの境港が、中国横断自動車道岡山米子線の終点になります。ただここから米子のところまでが実は絵が描けていない、事業化されていないところであります。今我々山陰の方では、これを8の字型に宍道湖、中海をつなぐ道路の一環として、この中国横断自動車道岡山米子線の完成を目指す本格的な活動しております。ぜひ、伊原木知事にもご理解いただいでですね、こうやって一気に岡山、或いは倉敷からですね、こちら境港まで一本の道が完成するようにご協力をお願いできればと思います。

また、因美線が今、搭乗者数100数十人くらいということでありまして、今芸備線だとかですね、いろいろと取り出されているところでもあります。そういう意味で、これも地元の津山や智頭などもかなり頑張っておられますが、両県でも交通を守れるような取り組みを展開できればなと思っています。

この度も、鳥取の方の山間の日本料理店を絡めたツアーとかですね、或いは津山の駅のところの昔ながらの扇形の車庫があったりして、ああいうのをモチーフにしてやるとかですね、そういうツアー造成も現にやったところでもあります。結構手応えがあると思っています。またSAKU美SAKU楽（さくびさくら）などですね、人気のある列車もあります。今度は3月9日に、我々JRの米子支社と話ができました。ポケモン号を津山まで走らせるということの了解を得ました。こういうふうにして因美線をですね、もう一度観光という観点からいろいろとよみがえってくるものがあるんじゃないかなと。その辺をですねぜひ一緒にできればと思っていますので、よろしくお願いを申し上げます。そのようなネットワークを維持していくことなどですね、協調してやっていくことを、このJRの経営問題が絡んできてからですね、非常に重要になってると思いますので、タッグを組んで行ければと思います。

## 水産業振興に向けた取り組みについて

### ○平井知事

そして最後に、水産関係につきまして、場所柄、話を交わさせていただければと思いますが、私の方から先に申し上げたいと思います。

先ほど申しましたようにここは水産の基地でありまして、日本海側随一の基点基地でございますが、そうしたところですね、今、ベニズワイガニ或いはズワイガニ、また夏場に岩ガキであるとかですね、またいわしやちょうど今ですとブリであるとか、そうした様々なお魚、魚介類が上がってくるわけです。瀬戸内の岡山も日生のカキとかですね、シーズンかと思えますし、こういう牡蠣の養殖なども国際的な認証をとられたというふうにもお伺いをいたしております。

そういう意味で、我々もまだこれから掘り起こしていくテーマとしてですね、こういう魚という観点で、例えば新橋館を利用して共同で瀬戸内と日本海と両方楽しめる、こんなことで販売のプロモーションかけるとかですね。またいろいろと観光に絡めてですね、ルートとしてずっと歩いていただくと。ままかりを食べて、こちらにきて今度はマグロだとかですね、そうしたことでこれがまた日本らしい提案にもなるんじゃないかなと思います。そういう意味で、ぜひですね、水産業振興でもパートナーシップを作ればと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

## ○伊原木知事

平井知事のカニに対する思い入れ、県の名前に「蟹取県」。本当に実際の鮮度管理の取組も今日教えていただき、また、その積極的なPRもそうですし、我々本当に学ぶところが多いと思っています。我々自身例えば鮮度管理ということで海水を冷却する装置を港に置いたり、もしくは漁船の中に置いたりということで、できるだけいい状態で流通をしよう、また船の上で神経締め、活締め、いい形の締め方をすると、鮮度が落ちないっていう、いろんな工夫をして、取れるまでのものは養殖じゃないですからなかなかコントロールできないんですけれども、取った後いかに鮮度を維持することができるのかということについては、我々も非常に工夫をしているところでございます。あと、平井知事もおっしゃっていただきましたように、例えば、牡蠣の垂下(すいか)式養殖業で、国際認証MSCを取得するのですとか、せっかくいい工夫をしている場合、区別つけられないと損をしますので、我々の牡蠣はこんな工夫をしている、こんなおいしい牡蠣なんですよ、みたいなことがきちんと伝わるようにしようみたいなことをしているところでございます。

あとは、クロダイについてはちょっと自慢なんですけども、残念なことがずっと起きていまして、クロダイ、真鯛と違ってちょっと黒いんですよね、身体が。おいしいんですけれども、真鯛と比べると季節によって、おいしかったりおいしくなかったりするんですよ。おいしくないときのクロダイが確かにおいしくないんですよ。もう本当においしくないんですよ。ところがおいしいときのクロダイはものすごくおいしくせに、おいしくないときにクロダイを食べた人の評判がちょっと悪い形で広がってしまっていて、今、漁師さんがクロダイが取れても、値段がつかないから売れないからって言って捨てちゃうぐらいになってしまっています。本当にもったいない。そのクロダイが今度は別のものを食べてしまう、食害のもとになっている。捕まえて高く売りたいものが、食害のもとになって、これどういうことだっていうことなので、今、クロダイは季節を選ばずすごくおいしいですよっていうことをPRをしています。私もちょっと自分で食べてみようということで、真鯛とクロダイ、いろんな調理法で食べさせてもらい、真鯛の名誉のために言うと、クロダイのおいしい時期に食べました。びっくりしたのがお刺身でいえば、私はクロダイの方がちょっとおいしいと思いました。クリーム煮にしたときに、ようやく鯛ぐらいで、塩焼きにしたときなんていったら、もうどう見てもクロダイの方がおいしい。いや、真鯛よりも絶対クロダイの方が、倍払ってもいいよっていうぐらいおいしかった。値段は、その日の値段が、4倍真鯛の方が高いんですよ。ですから、とにかくクロダイおいしいよっていうのが今、絶賛PR中で、去年の11月にお台場で開催されました第10回Fish-1グランプリにおいて、クロダイを使ったクロダイ丼が準グランプリということでありまして、なかなか頑張っているじゃないかという、我々もちょっと全国への浸透度合いにおいて、平井知事に大きく劣後していますけれども、地元で地味に頑張っているということは、ここで紹介させていただきました。でも、我々別の海ですけれども海の幸には恵まれていますので、ぜひこれをもっともっと我々自身の幸せにつなげる、また、県のPR、観光PRにもつなげていくにあたって、ぜひ新橋館は活用していきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

## <合意事項>

### ○平井知事

はい。ありがとうございました。

いろいろといろんなご苦労があることはよくわかりました。我々の方でもいろいろ取りまなさないといけないこともありまして、ぜひですね、一緒にできればと思います。我々のところで実は、境港で先般、Sea 級グルメ、海のグルメなんですけれども、Sea 級グルメっていうのを全国回ってます。これをやったばかりであります、いろいろやっぱり海の幸は可能性があると思います。伊原木知事のお話を聞いてなるほどな、鯛にもいろいろあると。苦労も苦労大だそうです。真鯛はまだいい、というのはどうでもいい話ですけど、そんなことで、一応オチにさせていただいてもよろしいでしょうか。

それじゃ合意事項に入らせていただきたいと思います。

今日意見を取り交わさせていただいて、大体すり合わせができたようでありますので、お手元にある文書で合意させていただきたいと思いますが、さらっと朗読をさせていただきます。

#### 「人口減少問題克服へ向けた両県の連携」

人口減少問題克服へ向けて、移住定住促進を連携・協力して事業展開するとともに、企業の地方移転のインセンティブが働くよう、東京と地方の法人税に差を設けるなどの思い切った税制措置の創設や、地方が創意工夫しながら、女性や若者も住みやすく安心して暮らし続けられる地域づくりを進めるために必要かつ機動的な財源措置を国に求めていきます。

#### 2つ目に、「文化・芸術を通じた観光振興」

美作三湯芸術温度や瀬戸内国際芸術祭の開催、鳥取県立美術館の開館や鳥の劇場のリニューアルを契機として、文化・芸術の面で相互に連携しながら、誘客の拡大を図り、周遊型・滞在型の観光振興を展開していきます。

#### 3番目、「交通ネットワークの整備や利用促進」

中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化や境港までの延伸など、相互交流を支える高速道路ネットワークの早期整備や、因美線を始めとする鉄道ネットワークの維持・活性化に向けて、引き続き連携して利用促進に取り組むとともに、国等へ働きかけていきます。

#### 最後に、「水産業振興に向けた取り組み」

水産物のブランド化などの付加価値向上や、とっとり・おかやま新橋館を活用した販売促進・PR などを通じ、水産業振興に向けて連携して取り組みます。

以上、4項目です。よろしくお願いいたします。

#### ○伊原木知事

はい。

#### ○平井知事

それでは以上で、協議は整ったところでございます。では司会の方に代えさせていただきます。

#### ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

ありがとうございます。それでは議事撮影を行いたいと存じます。

(両県知事で合意事項のパネルを持って記念撮影)

## ＜閉会・記者会見＞

### ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

ありがとうございました。それでは本日予定しました、意見交換はすべて終了いたしました。これをもちまして、令和6年度鳥取・岡山両県知事会議を終了いたします。このまま記者会見を行いたいと存じます。質問される方は、社名と名前をおっしゃっていただいて、ご質問をお願いいたします。

### ○日本海新聞

日本海新聞の清水と申します。

今回鳥取・岡山両県知事会議を境港市でされた狙いと、あと国会が再開して、ちょうど石破総理が施政方針演説をされたタイミングということもあったかと思うんですけども、今回のこの会議開催されたこのタイミングの狙いということについて、平井知事の方に伺えますでしょうか。

### ○平井知事

伊原木知事がご当選されて、4期目をスタートされました。伊原木知事と一緒に取り組んできたのは、人口減少を克服する対策でございまして、石破総理の地方創生2.0が本格的に出たところですね、この会議を持たさせていただきました。場所としては、伊原木知事はいろんなところをいただいているんですが、今山陰では喫緊の課題が、ここ境港に岡山からの高速道路をつなげてくる、そういう夢であります。そうした思いといいますかですね、境港の価値というものを、ぜひ伊原木知事ご覧いただきたいということで、ここが山陽側にも魚を発出する拠点であること。それから、私どものまちづくりの振興や水木しげるロードなどをですね、ご覧をいただくことを兼ねまして、境港での開催をさせていただきました。

### ○日本海新聞

すいません。それを受けまして伊原木知事、この境港を視察されて、道路環境などについて、必要性というのはいかがお感じになりますでしょうか。

### ○伊原木知事

そうですね。道路っていうのは、その地域の交通量をさばくっていうことも大事なんでしょうけど、都市間を結ぶっていうことも当然あるわけでありまして、我々からするとできるだけ早く日本海に着きたいというニーズもあるわけなんです。先ほど申し上げましたように、岡山米子線の日本海と瀬戸内海とそれから太平洋まで結んでいるっていうのは、平時でいえば、魚介類をできるだけ早く大消費地に届ける、これは、生産者にとっても消費者にとっても良いことでありますし、また、非常時においては例えば、ずっと心配されている南海トラフの地震が来たときには、いかに四国を救うかというときに、大変大事な動線になるわけでありまして、道路については例えば、このあたりの道路ができる、できないっていうのが、東北、北関東の人にとってどう影響するのかっていうのはありますけれども、意外と距離が離れた人たちにとっても大事なことになるということが、多々あることでありまして、我々としても、今日、これまでもずっとそうですけれども、鳥取県さんの方で言われている道路ネットワーク、

これ大事だになってというのは、隣県ですので、我々にとっても大事なんですっていうことは多々あること  
でございます。特にこれだけしっかり市場を整備されているっていうことになるのとより我々としても、  
近くにあってありがたいなあということでございます。

ちょっと余談ですけども、水木しげるロード、最初にご紹介していただいたとき、また、家族でた  
またまプライベートで訪れたとき、また今回見させていただいて、来るたびに少しずつ妖怪が増えている  
な、充実が進んでいるなということを感じております。私、新年の祝賀式というか、年頭訓示にあた  
って、ちょっとミスをして、すごい偉そうな話をしているのに後ろの髪の毛が立っているところがニ  
ュースでばっちり映っております、こんなことになっちゃったよって言ったら、絶対妖怪のせいだ  
と、鳥取が近いからこういうことになるんだっていうのが妻の見立てでありますけど、今日ここに来  
て、私が認識しているよりも妖怪が増えていると、パワーが増えているからこういうことになったのか  
なと思った次第でございます。非常に、平井知事の努力がいろんな形で、実を結んでいるなというのを  
感じております。

#### ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

他にございますでしょうか。どうぞ。

#### ○山陽新聞社

山陽新聞社の吉川と申します。

医療提供体制の関係でお二人にお尋ねをしたいんですけども、今日のお話だと、平井知事から若手  
医師の確保、課題があるということで、伊原木知事がそれに対して特に県北部では状況が似ているので  
協力していきたいというようなお話があったかと思うのですが、具体的にその国への働きかけとして  
はどのような内容が想定されるのかとか、それ以外でも協力し得ることとしてはどのようなものが想定され  
るのかを教えてくださいたいです。

#### ○平井知事

ちょっと先に話させていただいて、また伊原木知事の方に引き継がせていただきたいと思います。

今の政府の方では、医師不足対策について本気で取り組もうと。近々そうした対策をとりまとめると  
されておられます。ただそこでの問題は、全国平均に対して医師の数が単純に人口当たり多いかどうか  
というメルクマールで、当初から検討が進められてました。その結果、現にこの1年前の段階ではです  
ね、岡山、鳥取は大学の定員が減らされているということです。しかし、実は、東日本で東京にお医者  
さんが集中します。ですから北海道から大体中京圏までは、医師が相対的に減るんですね、東京に吸収  
される。代わりに西日本の方はその影響を若干外れるものですから、比較的平均的にどこの県も医師を  
確保してきたということです。ところが、全国平均を取ると東日本の大方のところは平均以下になって  
医師少数県、西日本は医師多数県に多くが分類される。それで、西日本の医学部定数を東日本の方に持  
って行くっていうことになるんですが、ちょっと考えていただければ要は東京と東京のまわりで、調整  
すれば済む話です。ですから本質を見誤ってですね、こういう岡山、鳥取のようなところでさらに医師  
を減らして、例えば診療科目、整形外科だとか、最近なかなか居づらいところもあります。そういうと  
ころに影響してくるような改革というのは避けてくれと。岡山県の伊原木知事と連帯をしまして、今、

福岡厚生労働大臣にたび重ねて要請活動しています。国もこうした実情に配慮し始めていると思われませんが、今予断を許さない中ですね、最後の働きかけを今後もやっていこうというタイミングであります。

また医師不足の中で、やはり最低限の医療を確保して命を繋いでいくために、例えば鳥取県のドクターヘリ、これが岡山の県北の方のエリアになりまして、現実には救急活動とかですね、連帯を始めております。

また鳥取県の中の三朝という温泉地のところですか、それから鳥取市内の市立の病院、鳥取市立病院、こうしたところも岡山さんと一緒になってですね、実は人材の確保をさせていただいてるところであります。

いろいろなことがありまして真庭ぐらいですと倉吉に実は越境してですね、診察を受けたり入院されたりしておられるように、実は両県の県境は、医療圏という観点では重なり合っているわけです。ですから共同で、そうした中山間地の医師不足等の対策をですね、考えていくことが非常に求められておりまして、伊原木知事とぜひですね、連帯してやって参りたいと思います。

### ○伊原木知事

非常に詳しく説明をしていただきました。まさにその通りなんですね。国の方が、日本全体を見渡してみても、こういうふうにすべきなんじゃないかっていう、別にそれを否定するわけではありません。その時にもものすごい詳しいところまで全部分析してどうのこうのっていうのは実際には難しいので、何か代表的な指標をとって、整理をするっていうのも、それは現実的にそういうことになるんだろうなと思うんですけども、我々は、それよりも当然細かく地域を知っているわけですし、実際の困りごとが起きているということを知っているわけですので、例えば、数字だけでいえばそうなるんだけど、むしろ、県全体でいえば、確かに他県の平均よりは恵まれているんだけど、岡山県の場合は、かなり県南に集中をしている実態があります。我々、お医者さんにここに住みなさいとかっていう強制はできないわけですし、この科を開いてくださいっていう強制もできないわけですので、実態とすれば、県北の方がかなり薄くなってしまっている。また、科によって、産婦人科がなかなか厳しいんだ、小児科が厳しいんだっていうことになっている。もしくは、日本全国そうですけれども、外科が減ってきているんだっていう、救急がなかなか回らなくなっているんだっていう、どうしてもこれはそうなんだろうと思うんですけども、休みがちゃんと取れて、真夜中に働かなくてすんで、ある程度報酬が取れる科の方に若い人が行きたがるのは、それ自体はそうなんだろうな、でも、実際の需要とは随分、年を経るごとに乖離が出てきてしまっているということもありますし、また人数はそろっているように見えても、平井知事おっしゃっていただきましたけれども、年齢構成が随分違ってきている。お医者さんについてもそうですし、岡山県においては、看護師さんが特にその問題が顕著に出ています。北備（ほくび）、つまり高梁市、新見市においても、真庭市もそうですけど、看護師さんの平均年齢がかなり上がってきてしまって、これが10年後ちゃんと人数がそろえられるんだろうかっていうことは、関係者みんな心配している、そういったことは、ざっと全国で出した数字の中に入ってこないわけでありまして、ですから我々とすれば、こうですよ、じゃあこうしますよっていうふうに言われて、はいそうですか、ということとはとても言っていられない事情があって、そこに1つの県だけで反対をしても、何か1つだけわがまま言っている県があるなっていうことで終わりがねない時に、共通の悩み、非常に似た状況で、苦

労している県で連帯をして、いやいや別に邪魔をしようとしているわけでもない、嫌がらせをしているわけじゃない、こういう状態があるので、それについてちょっと修正をしていただきたい、スケジュールを考えていただきたいというふうに、伝えるというのが大事なことだと思っています。

#### ○櫻井鳥取県政策戦略本部長

すいません、最後の質問とさせていただきます。

#### ○NHK

NHKの渡利と言います。

両知事に伺いたいんですけども、合意のところの1つ目の人口減少問題克服へ向けて連携協力をして事業展開をするってところで、平井知事が買い物の件で、岡山の事業者が鳥取にきてというところに触れ、民間での連携ところがあったんですけども、今の段階で行政負担での連携っていうか、連携とか協力事業展開っていうのがもしあれば伺いたいのですが。

#### ○平井知事

これについては今後の展開によると思います。正直申し上げて、今完全に落ち着いたわけではなくて、鳥取県内ではAコープ系が20店舗、一斉に閉店するということになりました。その中で、県境を跨いで流通もありますので、岡山県側の事業者さんのご協力を得ているところもあります。今後ですね、どうのように協力関係ができるのかということ、また現場で話をさせていただくことになろうかと思えますし、鳥取県としては、今回の地方創生2.0による新しい交付金がありましたので、強力でですね、そうした地域での構想を我々も後押しをしていくように、制度的にも評価をして支援して参りたいと思っております。

#### ○伊原木知事

まさにその通りで、今、ガチガチに何か決まっているということはないんですけども、先ほどお話にありましたお見合いのパーティーが、前回非常にうまくいったということですので、ぜひ継続を考えていきたいなと思っておりますし、買い物でお困りの方について、どうすればいいのかっていうことについては我々も悩んでいるところであります。岡山県南の方では、随分移動販売が独自に採算ラインに乗っている、もしくは市町村の軽めの支援で採算ラインに乗っているということがございます。そういった事例のご紹介っていうのもさせていただければなというふうに、今お話を聞きながら考えていたところでございます。我々自身もお隣っていうこともありますし、特に、より近い岡山県北の場合、本当に中国山地の北側か南側かっていうだけの違いで、ほぼほぼ似たような悩みを抱えていますので、こちらでうまくいったことは多分、鳥取県でもうまくいく、鳥取県でうまくいったことはぜひ試させていただきたい、そういう関係になっています。

#### ○平井知事

1点ちょっと申し上げないといけなかったかなと思うんですが、移動販売で「とくし丸」が展開しています。これは天満屋さんのお力をいただいて、展開しております。

○伊原木知事

もうすでに。失礼しました。

○櫻井鳥取県政策戦略本部長

それでは、こちらで記者会見を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。